

2 ベトナム企業調査印象記

黒田 彰 三

社研の隔年の「海外企業調査」もほぼ定着した感がある。最初の「韓国」、2回目の「北京・上海」、それに今回と全て参加させていただいた。旅行計画に従ってただついて行くだけの旅も気楽で良いものである。今回も事務局の方と旅行社の方のお骨折りに感謝しつつ、他のメンバーの方の迷惑にならないよう、団体行動であることを頭の中にきちんといれて旅を楽しんだ。

ベトナムという国に関して私に一番強い印象は、今から約30年前に大学に入学したときである。ちょうどベトナム戦争が一番激しかった頃で、文化系のサークルの紹介をする先輩学生諸氏の言葉に「ベトナム」が出てこないサークルはなかったのではないかと思うほどであった。しかしなぜか「身近な国」という印象はなかった。「軍事政権」「米の二期作」「ベトコン」くらいしか思い浮かべられなかった。ベトナム戦争で彼らが勝利したとき、アメリカのお節介焼きの負けと思った程度で、ベトナムの人々には申し訳ないが、彼らの祖国愛、底力に敬意を表するほどの気持ちはなかった。

また最近の日本の製造業の海外立地についても、中国、マレーシア、フィリピンくらいしか記憶になく、ベトナムは社会主義国で進出が難しい国と思っていた。このようにベトナムに関しては強い興味は持っていなかったが、社研で取り上げるだけの訪問先だから少し勉強してみたいという気持ちと同僚の畏友高橋祐吉氏の薦めもあって、参加を決断した。

参加を決めてから現在のベトナムに関する勉強を開始した。これに非常に役立ったのは「躍動する国ベトナム」(窪田光純著 同文館 1996)である。著者の肩書きはベトナム経済研究所副所長となっている。初めて目にした名前であるが、読了して、肩書きに重み加わると感じた。この書物の内容と、今回の旅行から私の得た体験と聞き取りを纏めて、以下に書き記すことにする。その前に、どんな国か日本との簡単な比較をしておこう。

面積：約33万平方キロメートル 日本は約37万平方キロメートル。可住地は恐らく日本より広いであろう。

人口：7,000万人	日本：1億2,000万人
就業者比率：48 22 30 (1995)	日本：7 31 62 (I次、II次、III次)
GNP：120億ドル (1993)	日本：4兆ドル
平均貯蓄率：8-9%	日本：13-17%
道路舗装率：約25%	日本：100%
輸出総額 96年目標 250億米ドル	日本：94年で約4,000億米ドル

ホーチミン市とハノイ市とはほぼ同面積：2,000平方キロメートル　これは東京都とほぼ同じである。人口はホーチミン（旧サイゴン）市が400万人、ハノイが300万人。生活で血縁、地縁関係が強いことがやや日本と似ている。

旧ベトナムは1975年ベトナム戦勝利後に「社会主義」の理想に燃えた南北統一国家の建設をしようとした。が、食糧不足と貧困が大きな障害になり、1986年からこれを乗り越えるために「ドイモイ政策」を始める。ドイモイの基本政策は以下の4点である。

1. 社会主義路線の変更。
2. 産業政策の見直し。重工業から農業、軽工業重視。国家はまず食糧の自給から始めるべきと考える。
3. 市場重視、自由経済。従来の中央集権的な計画経済を基本的に放棄する。
4. 国際協力への参加。インドシナ半島のみならず、世界平和構築に協力する。

1に関しては極めて大胆な発言がなされている。「社会主義で飢え死にするより、資本主義で搾取される方がまし」と言うことを聞くと、理想を実現させる諸困難、現実の厳しさを知らされる。

3月14日、計画投資省を訪問、そこで対応して下さった官僚の方は、ドイモイの成果として5つの点を説明された。1. インフレの抑制。2. 各地で産業の発展が見られる。3. 開放経済、輸入の自由化。4. 国民生活水準の向上。現在首都と地方で所得格差が、5倍くらい、山岳地域で10倍くらいある。国民の20%が貧困層。生活水準を計画的に向上させる。人材養成に教育を重視し、予算は15%をそれに割いている。民間の教育への参入も期待している。外国の協力も期待しており、留学も奨励している。5. 法治国家として行政が整備された。安定した成長が実現できている。

小生が訪問前に感じた疑問を質問した。「貴国は原油を輸出（主要な相手国は日本）して、石油製品を輸入している。石油はエネルギー、化学産業にも重要である。精製所あるいは石油化学コンビナートを建設する予定、計画はないのか。そして現在、貴国は外資を積極的に導入しようとしているので、技術も併せて導入する計画はないか」と伺った。それに対する答えは、「そのような計画はない。自国で行えば、3分の1から5分の1で済む」である。エネルギー政策は重要であるだけに外国に委せられないのかもしれない。

この後に訪問した共産党でも同じようにドイモイに関して評価を聞くことができた。政治と経済は人間の足と同じである。右、左と一歩ずつ進む。表現の自由・発表の機会の増大を進めている。経済の安定のために政治の安定を図る。法整備は進んでいる。西側の政治体制を否定しない。民主主義社会であれば複数政党は当然である。社会党には知識人出身者が多い。市場

経済は人類共通のものである。計画経済と市場経済を結合する。それは客観的に調整されるものである。経済の目標は方向付けの意味であり、しばられるものではない。1986年から重工業を優先しつつ、農業、消費財、輸出も奨励している。投資を優先的に増やした。農業管理方式も大幅に改革した。農業合作社では、農民の積極性が発揮できなかった。それを農業請負制にして、農地を貸し与え、収入増大の道を開いた。ドイモイがなければ、今日のような農業の成果はなかったであろう。外国資本の導入に関しては、国際状況と国内の要請から進めてきた。96年3月末までで、1,633件、284億米ドル、100%出資も承認している。

さらに翌日、国立社会人文科学センターでも、ドイモイの農業面での成果を聞くことができた。農業のための土地の使用権を貸し与えている。ふつうの農業には20年、果樹には50年以上である。土地を貸してもらった農民は5つの権利を持つ。1. 使用権の移転は可能。2. 土地を交換することもできる。3. 銀行からの借入れをするとき、担保とすることもできる。4. 耕作しないときは他人に貸せる。5. 次世代に権利を引き継がせることもできる。農民は人口の80%で、農産物は自由に販売できる。ドイモイにより自給は可能になり、輸出もしている。飢え死の心配は解消したのである。

ここでは農業以外のことも話された。印象に残ったことは、マルクス・レーニン主義を科学的に研究するということである。それがベトナムに合わなければ、変えて使用する。ベトナムではホーチミン思想になる。では「ホーチミン思想」とは何か。きちんとした定義はないようであるが、主たる内容は、1. 民族主義、2. 人類文明に開かれた思想、3. ベトナムの文化的伝統を尊重する（古田元夫著「ベトナムの現在」講談社現代新書 109-126頁）ことのようなのである。

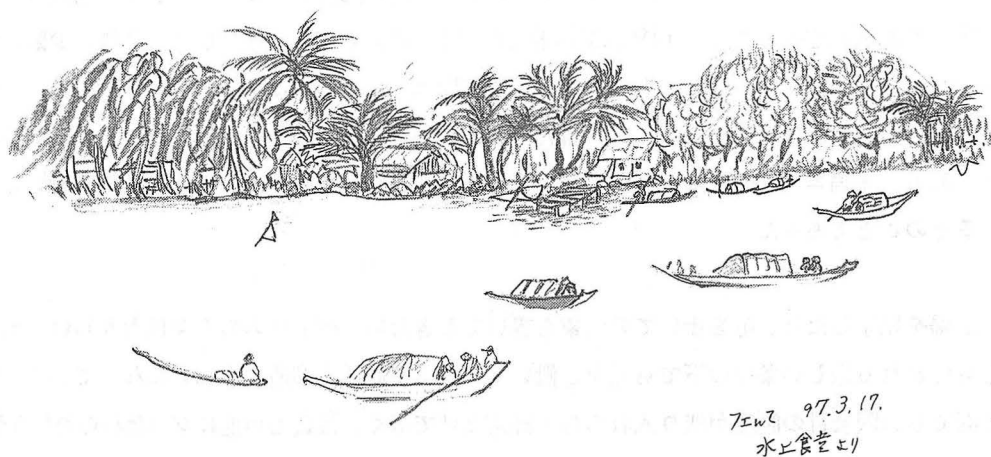
このようにドイモイを高く評価しているのは現在順調に発展をしていることと外国人に対する宣伝もあると想像される。中国の改革開放で、貧富の差の拡大、社会秩序の乱れ、少数民族問題などが指摘されている。ベトナムでも似た問題は生じているはずである。一つの例として、急速な自由化、西欧化で好ましくない書籍やビデオが流入しているが、これは規制しているようである。無論エイズの予防、人身売買の禁止、未成年児童へのいたずらにも厳重に対処しているとのことであった。

工場を見学したり、町を歩いての印象も書いておきたい。ベトナムの人々は大人しい。過酷とも思われる厳しい条件の下でも黙々と働いている。それゆえ製造業も活発になっている。制度面でも有限会社の制度が取り入れられ、経営だけでなく、投資も可能になったからであろう。しかし会社の株主、役員には誰でもがなれるのではなさそうである。ホーチミン市を移動する時、チャーターバスの中で通訳として同行して下さったベトナムの大学の日本語科の教授「ハ

イ先生」に聞いたところでは「役員には親戚、友人、知人が多い。しかしお金持ちの資本家になることもある。その場合は保証人がいて初めて認められてなっているようだ」とのことである。ついでに「国（王）の掟も村の境まで」とベトナムで言われているのは本当でしょうかとお尋ねした。「地方ではどんどん法律は破られていますよ」とのご返事。かつて学生時代に読んだある雑誌の記事で「アメリカはベトナムから手を引いた方がよい。ソ連にとっても支配し難い国家であるから」と書かれていたことが奇妙に頭に残っていたが、氷解した。

町を歩いたり、市場で買い物をしているとき、商品を守る人間の商売っ気の無さを感じたが、夜のポンビキには明るさ、屈託の無さ、商売熱心を感じた。日本人を狙い撃ちしている感じである。またバイクを使った、ひったくりは凄まじい。メンバーには危うくバッグを取られそうになった人もいる。擦り傷だけで済んだようで、不幸中の幸いである。

旅行前の打ち合わせの席で十分注意されていたが、生水は本当に危険なのか試してみたくなった。ベトナムでも最高級のホテルであったので、少し勇気を出して部屋の中においてあったポットの生水を飲んでみた。やや臭みを感じたが、旅も終わりに近かったこともあって、コップ三分の一ほど飲んでみた。約一時間後から、トイレとベッドの往復になった。翌日の昼の行程の一つを休ませて頂いた。科学的冒険(?)も団体旅行では慎まなければならないことを銘記して筆をおきます。



7Ew 97.3.17.
水上食堂より